

2025 年入試 筑波大学附属駒場中 国語 解答例

大問一

問一 ア 過度 イ 整（原文では「整」となっているが、一般の用例に従って「調」が
正答とされる可能性が大きい。） ウ 当面 エ 底

問二

- (1)「ハングリー精神」は成功に向けて必死に取り組める気構えのたとえであり、「ぬるま湯」
は恵まれた環境に甘えて必死になれない心情のたとえである。
- (2)「ハングリー精神」は成功に向けて必死に取り組める精神の力であり、その力を発揮す
るために必要な条件をととのえることが「腹が減っては戦はできぬ」の意味である。

問三 歩けない人に杖や車椅子を与えることは甘やかしではなく、必要な支援だと考える
こと。

問四 ウ

問五

- (1)「ハングリー精神」を発揮するために必要な条件と甘やかしを区別する基準はひとりひ
とりの考えに委ねられ、一律には決まらないということ。
- (2) 断定的な言い方をして、読者に筆者の考える「自由」の概念を押しつけたくなく、読者
にもよく考えてもらいたいから。

大問二

問一 ア

問二 きらいな先生に厳しく指導されるうちに、自分の不格好な文字がはずかしくて、自信
を失い、文字を書こうとすると萎縮し、小さく頼りない字になってしまうということ。

問三 インドと違って、手書きの文字がほとんど見られない東京では、人々の個性や自由な
活力が感じられず、無機質で味気ない雰囲気寂しさを感ずるということ。

問四 甲賀さんの装丁の文字はパソコンをつかって書いた文字であっても、描き文字と同
じく、個性や熱を感じさせてくれる楽しくてすばらしい文字であるということ。

大問三

問一 だれかが、面白半分になさな嘘を織り交ぜて語ったうわさ話ではあるが、そのうわさ
の当事者にとっては名誉にかかわる重大な話。

問二 軽い気持ちで語られた事実に反するうわさ話が世の中に広まると、それは社会全体
で個人をおとしめ、深く傷つける、大きな不正義になるということ。